

アシストユーザー会

「ソリューション研究会」 レポート

No. ①

このコーナーでは、アシストのお客様各社のメンバーによる1年間の研究活動(分科会)をピックアップして、その活動内容をご紹介します。

(東日本)

「働き方改革」成功の指標 分科会

～働き方改革に寄与するIT活用事例～

メンバー
募集時の
テーマ

「働き方改革」の進め方の多くは単にツールの導入による残業削減など表面的な検討にとどまっています。しかし、ツール導入で生産性が劇的に向上するわけではなく、また残業削減が本来の目的ではないと思われます。「働き方改革」に成功したと言われる企業は、他社の取り組みとどう違うのか、「働き方改革」達成度の指標は何にすべきか、また、働き方改革に寄与するIT活用事例などについて研究します。

第1回

〈第1回 議題〉

14:00 - 14:20	アイスブレイク
14:20 - 14:40	会合ルール提案
～休憩～	10分 (談笑)
14:50 - 15:00	3カ月間でやるべきこと
15:00 - 15:10	働き方改革の背景共有
15:10 - 15:20	課題サマリー
15:20 - 15:30	「今日の会合のゴールを設定する」
～休憩～	10分 (グループ決め)
15:40 - 16:20	ディスカッション
16:20 - 16:50	意見集約
16:50 - 17:00	次の会合の準備



旬のテーマだけあって大所帯の当分科会。開催場所の確保からメンバー間の議論の方法まで色々工夫しています。

楠田さん 11社、16名から成る大所帯の分科会ということもあり、発足会では自己紹介だけで時間のほとんどを使ってしまいましたね。

松本さん 16名だと、各社の会議室を確保するのも大変だということを実感しました。どこも、大きな会議室は限られていますから。発足会で定例会合の日程を年間分決めた上で、毎回、次々回までの開催場所と会議室を確保するようにしたのはよかったと思います。

楠田さん 第1回の会合では、事前に時間配分も含めてアジェンダを綿密に準備しました。冒頭のアイスブレイクとしての他己紹介に始まり、会の運営

ルールも全員で確認しました。

岩尾さん 情報共有サイトとして利用するBacklogのフォルダ分けもきちんと確認できたのもよかったと思います。

楠田さん 第1回の後半では、四つのグループに分かれて、各人が研究したいテーマについて4象限にプロットし、グループごとに発表してもらいました。ここでは、メンバーのやりたいことを全員が理解した状態を議論のゴールにしました。その結果、働き方改革へ向けた「意識のギャップ」や「反発」、実施へ向けた「ルールや制約」、「成功指標の欠如」という四つの課題が導き出されました。

レポート担当者紹介



楠田征哉さん

リコーリース株式会社

松本亮さん

スズキ株式会社

岩尾達也さん

第一生命情報システム株式会社

厚生労働省が提示する「働き方・休み方改善指標」では、改革を阻害する要因の「見える化」の手順が示されています。分科会メンバーの皆さんは、この組織ごとに異なる阻害要因を実際に分析し共通点を見出すことで、日本の組織が内包する真の問題と、改革につながるKPI設定の可能性について議論を重ねていただければと思います。まずは中間の進捗報告を楽しみにしています。



西村 成一郎氏
ソリューション研究会 会長
日本ハム株式会社

第2回



〈第2回 議題〉

14:00 - 14:05	はじめに
14:05 - 14:25	現状把握のまとめを各チーム発表
14:25 - 14:45	深掘りすべき内容の決定
～休憩～ 10分	
14:55 - 15:00	なぜなぜ分析説明
15:00 - 15:20	なぜなぜ分析(要因分析) 第1回
15:20 - 15:40	なぜなぜ分析(要因分析) 第2回
～休憩～ 10分	
15:50 - 16:50	各チーム報告&レビュー
16:50 - 17:00	まとめ

会合では、メンバー間の意見交換の場をできるだけたくさんとっています。
第2回は研究の方向性を導き出すために、「なぜなぜ分析」をしました。

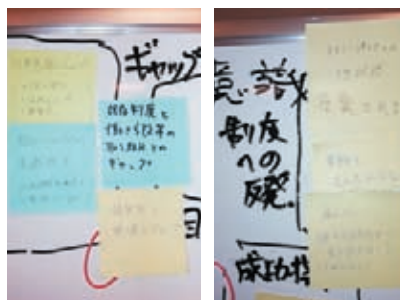
楠田さん 第2回は、グループごとに持ち寄った各課題の調査結果の中から深掘りするテーマを決めて、「なぜなぜ分析」をしました。なぜなぜ分析とは、根本原因を把握するために、要因を一つずつ順番に遡って、真因を導き出す手法です。要因は必ずしも一つではなく、いくつかに分かれる場合もあります。

松本さん 例えば、「意識のギャップと反発」グループでは、従業員がなぜ働き方改革の施策の目的を理解できないかについて深掘りしていきました。会合では途中までで終わってしまいましたが、「目的を理解できない」→「やりたくない」→「メリットがない」→「変化を嫌がる」→「作業時間が増えるから」などと、落とし込みました。

楠田さん 次回までに各グループに分かれて、「なぜなぜ分析シート」を一つは完成させて提出してもらうことになっています。5月29日に東京地区の分科会のリーダー／サブリーダーが集まって開催する「進捗報告会」があるため、次回までにある程度、研究の方向性を導き出したいと思っています。

岩尾さん 「なぜなぜ分析」は、いざやってみると思っていたよりも難しく、時間がかかりましたね。「なぜなぜ分析」を行った意図は、前回挙げた課題から根本原因を探っていくことにありました。当初は「なぜなぜ分析」を2回行う予定でしたが、1回で時間切れとなりました。

Today's Whiteboard



第1回のホワイトボード

「働き方改革」への意識のギャップとは、グループ会社と自社、経営者と現場、上司と部下、部署間などのギャップもあれば、既存制度と働き方改革の取り組みとの間のギャップもあります。また、反発とは、業務を変えたがらない、個人のスキルを表に出したがらないなどの反発要因です。グループごとに付箋で貼り出しました。

アシストユーザー会

「ソリューション研究会」 レポート

No. ②

(東日本)

情報システム部門のあるべき姿 分科会

～情報システム部門は今後どう変わっていくべきなのか～

メンバー
募集時の
テーマ

各種新技術や開発手法の登場などによりITの構築スタイルが変化しています。情報システム部門やSlerが担っていた厳格な要件定義が必要なくなったり、システムリソースも所有から利用に変わり、ユーザー部門主導で戦略的なITシステムを導入する例も出てきています。情報システム部門はどう変化すべきなのでしょう。情報システム部門のあるべき姿を検討します。

第1回

〈第1回 議題〉

- 事前提出された、各社のIT関連業務のサマリーを確認
- 本分科会として何を指すのかについて議論

〈第2回 議題〉

- 事前課題として提出された「各自がやりたいテーマ」を整理
- キーワード別の分類でテーマ案の絞り込み



情報システム部門といっても、その役割は各社様々。共通課題をどう導けばいいのかで、相当悩みました。

レポート担当者紹介



萩原繁さん

豊田竜也さん

株式会社
プロトコーポレーション

浅野造史さん

東亜建設工業株式会社

萩原さん 各社のIT関連業務を整理してみると、情報システム部門といっても、実は企業によってそれぞれ業務が異なるというのが印象的でした。所属する会社の業種や規模、またグループ会社の中での位置付けなどによって、その役割やミッションが異なるわけです。

浅野さん 私も同感です。社外向け製品やサービスにITソリューションを企画する役割を担っているところもあれば、業務プロセスの自動化や効率化、運用管理やヘルプデスクなど社内対応が中心のところなど、各社の役割は大きく異なることがわかりました。ITの戦略策定を例に取れば、情報システム部門長がそれを行っているところ

もあれば、情報システム部門以外の組織で考えられているところもありマチマチでした。

豊田さん 発足会でメンバーから提案があった「COBIT」というフレームワークに沿って整理したのが良かったと思います。各社の状況を同じ視点で確認ができ、それぞれの実態を効率的に把握できました。

浅野さん 宿題で持ち寄った「皆で研究したいこと」に、それぞれキーワードを付けて分類してみたんです。各社の状況が異なる中、それぞれの関心事はいくつかのキーワードに集約されることがわかりました。

この分科会には、リーダークラスの方が多く参加されています。「情報システム部門」といっても各社各様であることから共通のテーマを見つけるのに苦労されているのがうかがえますが、それも想定の上でこのテーマを決めました。DXの嵐が吹き荒れる中で、ユーザー部門主導のIT活用という潮流、新たなデジタル推進部門の出現と、情報システム部門を取り巻く環境も大きく変化してきています。答えは一つとは限りませんが、将来の情報システム部門のあるべき姿を様々な立場の目線で研究していただくと期待しています。



玉本 宏之氏
ソリューション研究会
副会長
コニカミノルタ株式会社

第2回



〈次回に向けた課題〉

自社の課題をもとにすれば、さらに実践的になるのではないかとの意見から、今回は、ミッション、プロセス、プロモーションについて、自社で課題になっている具体的な例を持ち寄り討議することになった

メンバーが研究したいことにキーワードを付けて分類してみたら、ミッション、プロセス、プロモーションなどに集約されました。

萩原さん 一つ目は、情報システム部門の果たすべき「ミッション」です。ITが重要だと皆口では言いますが、いまだにコストセンターや縁の下の力持ちの地位に甘んじているのが現状ではないかという指摘がありました。経営やビジネス部門の中心に立ち、全社戦略とIT戦略を整合させつつ、経営をリードできる情報システム部門へと変革するにはどうすればいいのかについて研究したいという壮大なテーマです。

豊田さん 二つ目は、「仕事のプロセス」です。ユーザー部門に勧める前に、まず自分たちはどうなのだろうかという視点でした。情報システム部門は自部門の業務の自動化や効率化に対してあまり積極的ではないのではないか。

「情シス＝大変」と捉えられることが多いため、そのイメージを払拭させるためにはどうしたらよいかを研究してはどうかという提案でした。

萩原さん 最後が「プロモーション」です。プロモーションというと社外が対象になりそうですが、この場合の対象は社内向けです。そもそも情報シ

テム部門が何をしているのかを知らない社員が多いので、社内での認知度（地位）をどう上げるか議論したい、という意見でした。さて、ここからどうテーマを絞り込んでいくかが重要になります。今回は、これらのキーワードについて、それぞれの所属企業における具体的な課題やエピソードを持ち寄り深掘りする予定です。

Other Feedback



豊田さん
株式会社プロトコーポレーション
(ITソリューション3部
アソシエイト)

情報共有のためのツール

アシストの分科会では、ファイル共有システムやメーリングリスト、チャットなどの情報共有ツールが提供されています。チャットは現時点では、課題ごとにスレッドを立てられなかったりと、ちょっと不便なところがあります。第2回の会合では、Web会議システムの「Zoom」を利用して、出張と重なったメンバーも出先から議論に参加できました。少しでも議論に参加できたので次回も参加しやすくなるだろうと思います。